

総務教育常任委員会資料

(令和4年8月19日)

【項目】

ページ

- 第13回中海会議の開催結果について

【総合統括課】…2

令和新時代創造本部

第13回中海会議の開催結果について

令和4年8月19日
総合統括課
水環境保全課
農地・水保全課
水産振興課
河川課

沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、中海に関する諸問題を協議検討する第13回中海会議を以下のとおり開催しました。

(参考) 中海会議とは

平成21年12月19日に締結した鳥取、島根両県知事の「協定書」を踏まえ、沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、新たに中海の水に関する諸問題を協議検討するため設置（平成22年4月22日）した会議。

※個別課題の検討・調整を行うため、次の4つの部会等を設置している。

- ①中海湖岸堤等整備にかかる調整会議 ②中海の水質及び流動会議 ③中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ
④中海の利活用に関するワーキンググループ

1 日時 令和4年8月17日（水）午後2時から3時半まで

2 場所 米子ワシントンホテルプラザ（ウェブを併用したハイブリッド開催）

3 出席者（※印はウェブ出席）

国土交通省中国地方整備局長（※）、農林水産省中国四国農政局長（※）、鳥取県知事、島根県知事、米子市長、境港市長（※）、松江市長、安来市長（※）

<オブザーバー> 環境省（中国四国地方環境事務所環境対策課長）（※）、防衛省（美保基地第3輸送航空隊装備部長）

4 概要

(1) 中海及び境水道の堤防、護岸等の整備について

○部会「中海湖岸堤等整備に係る調整会議」（事務局：中国地方整備局出雲河川事務所）から、中海湖岸堤整備の進捗状況等について報告が行われ、大橋川拡幅の前段階で中海湖岸堤を先行して時系列的に整備するという手順どおり、引き続き湖岸堤整備が進められることについて確認がなされた。

[報告の概要]

- ・中海湖岸堤の短期整備箇所については、鳥取・島根両県ともに完了しており、短中期整備箇所の整備を促進している。
- ・このうち、境港市西工業団地（貯木場北）が今年度で完成する見込みであり、米子市葭津については今年度工事を実施・完了予定である。また、米子市が策定した「中海・錦海かわまちづくり計画」に基づき、現在県が栈橋整備中の米子市灘町（米子港防波堤）については、来年度引き続き国が護岸整備を行い完成となる予定。
- ・中期整備箇所の米子市灘町（米子港野積場）については、民間の開発事業による背後地の嵩上げと合わせた一体的な整備に向けた検討を行う。

[主な意見]

- ・地球温暖化などの影響に伴う中海の水位上昇を勘案し、湖岸堤整備を前倒しで進捗するとともに、水位上昇のメカニズムの解明について、幹事会で研究を深めて頂きたい。（鳥取県知事）
- ・米子地区の湖岸堤整備は順調に進んでいるが、高潮が頻発化してきているため、高潮や水位の上昇の研究をお願いしたい。（米子市長）
- ・短中期、中期整備箇所の湖岸堤の早期の完成を望む。また、今年から「雨水管理総合計画」の策定と、浸水被害の大きかった外江地区の雨水幹線等の整備に着手しており、引き続き支援いただきたい。さらに、境水道沿いの外江地区については、斐伊川水系河川整備計画において、市の内水計画が整い次第整備するというようになっており、引き続き市と国とで調整しながら進めていきたい。（境港市長）

(2) 中海の水質及び流動について

○部会「中海の水質及び流動会議」（事務局：鳥取県生活環境部水環境保全課）から、令和3年度の水質状況、改善に係る流入負荷対策及び湖内負荷対策の取組について報告が行われ、引き続き、現地での実証実験やシミュレーション等を行い、中海の効果的な水質浄化対策を講じていくことが確認された。

[報告の概要]

- ・令和3年度の水質は、COD（化学的酸素要求量）が環境基準点12地点のうち、11地点で水質目標値を達成したが、全12地点で達成できていないことから目標未達成となった。一方で、全窒素、全りんは全12地点で

水質目標値を達成し、目標達成となった。

- ・下水道整備や道路路面の清掃をはじめとする様々な取組により、中海全体の水質は長期的には改善傾向にある。また、米子湾の透明度は令和3年度に2メートルとなり、令和2年度に引き続き目標値を達成した。
- ・国交省の湖内対策の事業として覆砂や浅場造成が実施されており、覆砂による栄養塩の溶出抑制や浅場造成によるアサリの個体数の増加や海草藻類の増加が確認された。
- ・令和3年度の取組として、流入負荷対策では米子湾エリアの流動と河川からの流入負荷の広がりを見視化。上層と下層で米子湾奥部に向かう流れが確認されることや、加茂川・新加茂川流域からの影響は米子湾奥部にとどまる一方で、伯太川・吉田川及び飯梨川流域からの影響は中海の湖心や米子湾奥部に広がっていることを確認した。
- ・湖内負荷対策では、米子湾エリアの底質や窪地調査を実施し、窪地の底質に含まれる水には硫化水素が多く含まれていることを確認した。また米子市中央ポンプ場沖においてファインバブルによる底質改善効果の検証実験を継続しており、底質の改善効果が確認できた。

[主な意見]

- ・加茂川の河口近くでシジミが生息していることを確認した。これは中海の浄化が進んでいる一つの効果ではないかと思っている。(米子市長)
- ・覆砂は有効であるという話があったので、計画通り実施してほしい。また更なる覆砂箇所は無いのか検討してほしい。(米子市長)
- ・浅場造成や覆砂により漁業資源が回復し、海草藻類の生育に効果があると示された。引き続きしっかりと実施してほしい。(境港市長)
- ・市内の農業法人が今年有機 JAS 認証になる水稻を 10 ヘクタールで作られており、化学肥料を使わないことで流入負荷の軽減になると考えている。流入負荷への取組もこれから気を付けてやっていきたい。(安来市長)

(3) 中海沿岸農地の排水不良について

- 「中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ」(事務局：米子市経済部) から、中海沿岸農地の排水不良改善の取組状況について資料提供がなされるとともに、引き続き、関係機関が公共残土に関する情報の共有化を図り、客土(農地嵩上げ)材としての公共残土受入れを促進していくことについて確認がなされた。

[報告の概要]

- ・崎津モデルほ場(A=3.3ha)において、令和3年度はA=0.1ha、令和4年度分は0.5haの合計0.6haの客土を実施し、全体進捗が78%となった。また、令和元年度から彦名地区(A=0.7ha)で排水対策工事に着手し、令和4年12月には完了見込みとなった。
- ・対策農地における営農改善が図られ、ねぎなど栽培が可能となったと農業者から評価を受けた。

[主な意見]

- ・整備済み農地では作物栽培が可能となるなど成果があった。なお、調達する客土材は対策農地と同一土質でなければ農家も栽培する作物について選択できない。(米子市長)
- ・国土交通省・農林水産省及び両県における残土情報について調整をお願いする。(鳥取県知事)

(4) 中海の利活用について

- 「中海の利活用に関するワーキンググループ」(事務局：島根県政策企画局) から、中海の利活用に係る取組状況等について資料提供がなされるとともに、今後の取組について意見交換が行われた。

[報告の概要]

- ・中海周辺のサイクリング推進に向け、サイクリスト支援体制の強化や、中国5県によるサイクリングマップの充実・活用、キャンペーンの実施等に取り組んでいく。
- ・中海・宍道湖一斉清掃や中海オープンウォータースイム2022の開催など、新型コロナの感染対策を行いながら、コロナ禍でも可能な範囲で利活用事業を実施している。
- ・米子港のウォーターフロント開発の促進等、中海ワイズユースと連携した地域活性化に寄与する拠点づくりを進め、中海周辺の賑わいの創出を図っていく。
- ・中海の漁獲量と組合員数が近年減少傾向にあるが、中海で獲れるスズキやタイワンガザミなどは資源活用されており、また、オダエビ、アカバイなどは今後の活用が期待できる。

[主な意見]

- ・中海サイクリングコースについて、走りやすいコースになるよう沿岸自治体で少しずつでもハード整備を進めるとともに、走行地点や目標までの距離、休憩所、飲食できる場所の情報提供など、観光客が走ってもわかりやすいコースとなるようソフト対策も進めていくことができたらと思う。(米子市長)
- ・水質と漁獲量の関係性など、引き続き分析・検討を進め、現状の課題・対応策等について今後も中海会議に報告いただきたい。(松江市長)